

前文部科学事務次官 前川喜平さんを囲んで学習会

主催 “知的障害者を普通高校へ北河内連絡会”

テーマ：日本の障害児教育の今とこれから

～「ともに学び、ともに生きる」教育をみすえて～

2018年1月28日（日） 枚方公園青少年センター 3階ホール 参加者190名

前川喜平さんを囲んで学習会 2日目 主催“知的障害者を普通高校へ北河内連絡会”190名参加
会場を大阪市内から枚方市に移して、「日本の障害児教育の今とこれから～『ともに学び、ともに生きる』教育をみすえて～」をテーマに開催しました。



国連障害者権利条約も障害者基本法も、特別支援教育ではなくインクルーシブ教育を求めているにもかかわらず、文科省はインクルーシブ教育「システム」というあいまいな言い回しで、特別支援教育を引きずったままで、インクルーシブ教育へと明確なかじを切ろうとしません。煮え切らない態度に、障害者や教育関係者から業を煮やした批判が噴出している現状があります。

そんな中で日本の教育行政のトップにいた前川さんはどう考えているのか、関心は高まります。受付終了後もひきを切らず申

し込みが続きました。

「前川さんのお話をうかがうだけで終わる会にはしたくない」という意見が、打ち合わせで繰り返し出されて、最初に私たち北河内連絡会が直面している現実と課題を前川さんと参加者に聞いてもらうという進行が確認されました。

①代表から、娘のマチコさんといっしょに10年間高校受験に挑戦し続け、27歳で定時制高校に入学したこと、その間に大阪府教育委員会の「定員内不合格は出さない」との確認を取ったことなど、歩んできた道のりを話しました。

②小学校の入学がまだまだ簡単に行きません。情報不足や偏った情報によって、支援学校、支援学級へ「誘導されている」実態が語られました。それをきっかけにすべての家庭に「地域の普通学校の就学通知」を出すように取り組み始めたことが紹介されました。

③高校受験の具体的な話と、高校に入学後も進級や評価のことで学校側と話し合いを続けていること。

「先生たちは学校の基準に息子を合わせることばかり言うが、なぜ息子の基準に学校を合わせるよう



に変えようとはしないのか」と、話しました。

④人工呼吸器ユーザーのユウタロウさんは、現在定時制高校3年生。来年は卒業となるが、具体的な進路が決まらない。大学進学、ヘルパー派遣事業所の開設、新たな起業など家族で話し合っている。

それにしても、演台に立ってマイクを握るお母さんたちの姿を横目で見ながら、「大したもんやなあ」と感心しました。満員に膨れ上がった会場で話す緊張など微塵も見られません。障害者に対する理解がすすまない中で、みんなといっしょに学ぶために、学校の先生たちや保護者と話したり、教育委員会ともきつい言葉も交えながらやりとりする経験がそうした豊かな力を培ってきたのかもしれない。

前川さんが登壇して、4人の話を受ける形で話がはじまりました。約1時間、加計問題、森友問題ではなく、障害者の教育について語ります。よどみなく湧きあがるように話が出てきます。それは、会場との質疑応答、意見交流になれば、なおのこと活気が出るようにもみえました。

憲法26条の「能力に応じて」という文言が話題になりました。私のメモから(1日目も合わせて)前川さんの発言を拾い上げると、「個性に応じて、個人の尊厳を大切に、といてもいいかな」「一人ひとりがどんな子も、異なる能力を持っている。」「一人ひとりが自分自身にふさわしい学びをすることができる」「ともに学びながら、一人ひとりに応じていく」など。



これらの言葉の中に、前川さんの生涯学習を考える基本や、教育機会確保法をまとめた原点や、退職後も福島の夜間中学に通ってボランティアを続ける理由が読み取れるのではないかと思います。

同時に、ここに障害者の側との(もちろんすべての障害者というわけではありませんが)微妙な「差異」があるように、私には感じられました。

「支援学校をなくすと、なぜいけないのか」「どこで学ぶのかは、障害者本人が決めること。親が決めるのではない」「新しい学ぶ場が

できても、結局公立の学校が変わらなくては解決しない」などの障害者の発言は、その「差異・ズレ」を表しているといえるのかもしれない。

その「微妙なズレ」の中に「ほんものの教育」をひもとくカギが秘められているようで、これからも前川さんと障害者との話し合いが続くことを期待してやみません。

学習会終了後は、昼食の弁当を頬張りながら交流会。枚方の竹皮弁当、文字通り竹の皮で包んだ野菜たっぷりのヘルシーな美味しさに満足。550円也。興味があればぜひ味見を。

普段北河内連絡会に関わってくださる身内の交流会を予定したのですが、51名の参加。中には、東京や三重、名古屋、千葉など遠路はるばる、宿をとって2日連続で参加して下さった方たちもありました。

ここでもまだ話が続けるのですから、大阪人のしつこさに前川さんはあきれられたかもしれません。



3 時過ぎの京阪電車で帰京の途に就かれて、2 日間に渡る大阪での学習会を終えました。私たちにとって本当に充実した、前川フィーバーの2 日間でした。前川さん、ありがとうございました。

